

【農業振興研究懇談会】

1 1月7日(木)に、上田農業改良普及センターでは上田合同庁舎会議室で農業経営者協会と農業士協会の両上小支部が中心となって開いた、上小地域農業振興研究懇談会に主催者の一員として参加しました。

この懇談会は両会員が直近の諸問題について意見を交わし、その後開催される「知事とのファーマーズ会議」「農政部職員とこれからの長野県農業を考える会」及び「上小地域県議会議員との農業振興懇談会」に報告、提案することを目的にしています。

当初、懇談会のテーマは「スマート農業の現状と活用への期待」としていましたが、台風19号による被害が発生し、その復旧関連に関する提言を追加することとなりました。

「スマート農業の現状と活用への期待」では県農業技術課の井ノ口専門技術員の講義の後、参加者が活用・導入を期待することを話し合いました。

特に農業従事者の高齢化と人手不足の対応策として期待する意見が多く、農業経営者協会の渡邊支部長から、最も大変な草刈り作業の軽減として、無人自動草刈り機の試験導入をした事例紹介がされました。また無人防除機(SS)や果樹の摘粒・摘果、剪定等の熟練を要する作業へのスマート農業技術の開発と導入への期待が話し合われました。

次に「台風19号被害復旧に関する提言」を話し合いました。最初に県下の被害状況と国・県による復旧支援策の説明を受けました。

特に会員から東御市滋野地域での被害状況の説明が有り、それにより次年以降の水田作付けが困難なこと、対応策としての転作作物の栽培も困難ことの説明があり、普及センター、地域振興局が市町村等と連携して対応に当たることを確認しました。

また施設、ほ場等の倒壊、流出のような直接的な被害ではなく、長野市、須坂市など他地域での流通機能の被災が出荷に影響したことが発表されました。

今回話し合われた意見等を集約し、地域農業者の意見としてまとめ、今後に予定されている諸懇談会に提言して行くこととなりました。



上小地域農業振興研究懇談会



スマート農業導入提案をする農経協渡邊支部長